

信州 あづみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。



www.eh-shuzo.com

信州 あづみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。



www.eh-shuzo.com

信州 あづみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。



www.eh-shuzo.com

信州 あづみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。



www.eh-shuzo.com

信州 あづみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。



www.eh-shuzo.com

信州 あづみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。



www.eh-shuzo.com

シリーズ① ほろ酔い一筆

直訳

そばのうまい時期というのは諸説があるようだ。新そばが打ち始められる秋口というのは一般的だが、それから二〜三カ月たった初冬が本当はうまい、という説もある。さらに、いや、年を越してからの方が絶妙だ、という人もいて、私事で恐縮だが、甥っ子の一人が小さいころからそば好きだった。そばだけでなく、塩辛とか酢の物など大人が好むようなものを欲しがった。



彼がまだ保育園に通っていた時分、旅行先でそば屋に一緒に入ることがある。

そのそば屋はお世辞にもきれいとは言えない外観だった。「古ぼけたこういふ店が案外うまいんだ。店に入る前に私は甥っ子に言ったように思う。」

店の人が注文を取りにきたとき、彼は言った。「こういう汚いお店の方がおいしいんだね」

店の人は絶句し、私もうつむいてしまった。

酒飲みにはそば好きが多いというのは本当かもしれない。私も酒が飲めるようになってから、そばが好きになった。

成人した甥っ子が酒豪になったのは言うまでもない。

シリーズ② ほろ酔い一筆

王さん

王さんがユニホームを脱いだ。選手時代は言うまでもなく、弱小球団だったホークスを常勝軍団に育て上げた手腕、日本代表チーム監督として第一回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)での優勝など、華やかな経歴に事欠かない。だが、その陰で夫人の死、自らの大病など悲運も多く味わっている。

夫人の葬儀に出席したすべての人に直接電話でお礼を言ったというエピソードは有名な。私にも似た経験がある。今夏、ソフトバンク対ヤクルトの交流戦が長野市であった。試合前日、ホークスの練習があるというので、知人のコーチにお願し見学させてもらった。



そのとき偶然王監督と通路ですれ違ったので「頑張ってください」と声をかけると、「ありがと。頑張ります」と答えて返ってきた。初めて会った人間にも丁寧に対応する。それは律義というよりまさに人の人間性なのだろう。

自らのプレーや後進の指導には頑固な一面を持っていただけというが、選手はじめ周囲の人たちに敬愛されるのは、実績だけでなく、その人間性によるところが大きいに違いない。

シリーズ③ ほろ酔い一筆

適材適温

ある競馬関係の団体に勤める女性が憤慨していた。居酒屋で「ひや」を頼んだら「おひや(水)を持ってこられたというのだ。女だつてひや酒くらい飲むんだから」

しかし、これくらいなら笑い話で済むが、「ひや」を頼んで冷酒を出されるとやっかいなこともある。「ひや」は常温、冷酒は冷やした日本酒なので、好みの酒のタイプと違ったものが出てくるケースがあるからだ。



冷酒は吟醸酒または大吟醸酒に限っている、という店もあるから、吟醸タイプ以外の純米酒などを飲みたい場合は「常温」と付け加えた方が確実だ。吟醸タイプを常温で飲みたいときも「吟醸酒を常温で」と一言言った方がいい。

それはさておき、日本酒のように冷酒、ひや、ぬる燗、熱燗とさまざまな温度で楽しめる酒はほかない。老酒を温めて飲む場合とか、焼酎をお湯割りで、ということはあるが、四季や合わせる料理あるいは好みで酒の温度が選べるのはうれしい。

英国人はぬるいビールを好み、という人が英国人にはいた、ということだと今でも思っている。

シリーズ④ ほろ酔い一筆

二箱のクレパス

児童の創作能力を重んずる自由画教育は、山本鼎が提唱し、長野県から全国に広まった。山本は一九一九(大正〇)年四月、小県郡神川村(現上田市)の神川小学校で、県内小学校から募集した自由画の第一回展覧会を開いている。

それまでの図画の授業は、手本に忠実に描く臨画が中心だった。これに対して自由画教育は、子どもの自由な発想を対象を捉えさせ、描かせるもので、当時の日本は画期的な美術教育だった。



二十年ほど前、大正時代に木下の図画の授業を直接受けたという、八十代の男性に話を聞いたことがある。先生は、「見たとおりじゃなく、思ったとおりに描いてもらい」とおっしゃってました。男性は当時を懐かしむように語った。

男性には忘れられない思い出があった。当時は子どもたちの親はみんな貧乏で、先生は自分の足りない給料から、高価だったクレパスを二箱買い、子どもたちみんな使おうようにと与えてくれたんです。信州教育はこうした現場の教師に支えられてきたのである。

シリーズ⑤ ほろ酔い一筆

詩人のエピソード

詩人であり、評論でも知られた日夏耿之介(本名種口園登)は一八九〇(明治二十三)年、飯田市で生まれた。飯田中学を中退し上京、早稲田大学卒業後、母校の講師を経て教授になり、英文学史を講じた。彼の詩は難解とされるが、靈感を帯びるようなその一語一語は、芸術において、美と高遠さは何ものにも優先する、と主張しているように思える。

一時疎闊した飯田では岸田国士らと交わり、酒を酌み交わしつつ過ごすこともあったという。一九五六年飯田に戻り、七一年に没した。



硬いイメージの詩人だが、ちょっと知られたエピソードがある。私はこの話を、かつて「週刊いだの」コラム「郷土の芸術家」の執筆者の一人だった米山直昭氏から聞いた。米山氏は若いころから日夏にかわいがられ、日夏の東京時代と飯田時代を通じて詩人宅に入りこんでいた。

その話というのはこうだ。

日夏が早稲田大学で教鞭を執っていたころ、よく休講する先生として有名だったらしい。大学に授業を休む連絡をするのはお手伝いさんの役目だった。その都度、近所の家に電話を借りに行かされたお手伝いさんは、ついに腹を立てて日夏に言った。「先生、これからは大学に出るときだけ連絡しましょうよ」

シリーズ⑥ ほろ酔い一筆

大晦日

大晦日と聞くと、何となく落語を連想する。斬の中に出てくることが多いからだろう。

志ん生のCDをよく聴くのだが、小斬の中で「お地蔵さんが電話をかけて『じぞう電話』なんつね」というのがある。だが、あれは今の若い人にはわかるまい。昔、交換手を介してかけていた電話が自動化され、それを「自動電話」と言った。そのいきさつを知らないとい何がおかしいのかわからない。



酒落(駄洒落)は間髪を入れずに言わないと面白くない。多少出来が悪くても、それに出来が悪くても責任を取られるようなことはないから、安心していい。そちらの才能はからっきしの筆者だが、駄洒落の大家といわれる同僚に「まああといわれた『作品』がある。鉄道関係の人には申し訳ないのだが、

「検札は眠れたころにやってくる」

皆さんも出張や旅行で経験があるでしょう。

やはり落語で「このままじゃ年が越せない。どうしようか、なんて言っても結局越せちゃうもんなんですか」というくだりがある。

いろいろあった今年も、何はともあれ暮れてゆく。

シリーズ ほろ酔い一筆

四月の雨

「プロドウェーのミュージカル『ワンド・オブ・ミーゼ』は、ジェローム・アンドリュース主演の映画化で世界的に有名になった。その中で主人公ミアが歌う「私のお気に入り」は、怖いときや悲しいときには自分のお気に入りを思い出す」という歌だ。



日本人は雨に関して独特の感性を持っている。雨を表現する言葉も世界一豊富だ。確かに、たとえば露雨と小ぬか雨、霖雨と長雨は辞書で引くと同じ意味だが、言葉の感じは微妙に違う。時雨や夕立などは季節でしか用いられない呼び方もある。雨に感嘆するのは日本が稲作によるものではないだろうか。

長野県民にとって「信濃の国」は特別な歌である。県歌なんだから当然だろう、という声もあるが、もともと他県には県歌として確立した歌がほとんどない。県民歌はあっても県民が認識していない。日常歌われる県歌は「信濃の国」くらいなものだろう。

シリーズ ほろ酔い一筆

信濃の国

この歌と長野県の歴史とのかわりはあるが、できた経緯も興味深い。一八九九（明治三十二年）当時長野師範学校教諭だった浅井潤二が最初につけた曲はあまり歌われなかったが、翌年、東京出身の同校教諭比村幸晴が作曲して大ヒットした。



冒頭、他県では県の歌が歌われない、と書いたが、「東京音頭」は半ば都の歌として親しまれている。スワローズの応援でもおなじみだ。この東京音頭を作曲したのが中山春平。つまり、長野県歌「信濃の国」は江戸っ子が作曲し、都民歌として「東京音頭」は信州人が作曲したことになる。

シリーズ ほろ酔い一筆

二面性

「愛の中の妖精」という芝居を観た。出演者が一人の、つまり一人芝居なのだが、出演した春風ひとみという子に、演劇の本質は一人芝居にそのあるのではないかと感ずる。舞台に引込まれたその一方で、この芝居を観て多くのことを考えたい。



スペイン内戦もフランク独裁統治時代についても、一応知っているつもりだが、この「二面性」は、その歴史認識では理解できない異行を現実社会は持っている。そのスペインに、太陽光発電容量で日本は抜かれた。明るく太陽の国スペインに当然と見られるこの分野では日本は世界の最先端を行って行くわけではなく、自身を引き締める。この、ちよつとした民衆の思い、将来、大きな差にならないとも限らない。

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

シリーズ ほろ酔い一筆

花は桜木

桜前線が急速に北上中だ。県内でも天龍村の桜は、すでに満開に近づいている。古くから桜は日本人にとって大切な関係にある。一番有名なソメイヨシノで、その開花を示すのが桜前線だ。だが、ソメイヨシノの歴史は意外に新しく、江戸末期から明治初期とされる。



長野県でもカトオヒガンザクラで知られる高遠をはじめ桜の名所は多い。有名な古木も各所にある。万が一古木が切り倒されるようなときは、他の樹木以上の感傷を感じる。それが桜であり、自分が日本人だからだと思ふ。

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

シリーズ ほろ酔い一筆

島岡山脈

明治大学野球部の監督を長年務めた島岡吉郎さんが亡くなって、この四月二十一日。当時週刊いっだで、高森町出身の島岡さんの追悼集を組んだ。



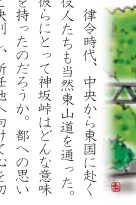
追悼特集に収録する談話はほとんど電話取材だった。飯田在住の明大野球部出身で、塚原天竜高現職立松川島、出身で明大野球部主将を務め、三菱重工長崎野球部の監督もされた宮脇茂一現職長崎養正サレバ社社長にお話をした。中でも印象的だったのは島岡さん、当時二年間監督期間が重なり、締めくくりにコメントした。命をかけて野球に打ち込む姿を敬愛しておりました。

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

シリーズ ほろ酔い一筆

神坂峠

四方を山に囲まれた信州は古来峠が諸国との出入口だった。信安の構想の一部だった静岡県境の香崎峠、岐阜県境の馬籠峠、安房峠、群馬県境の碓氷峠、十石峠、渋峠など古い歴史を持つ峠が多い。



鎌倉時代、中央から東国に行く役人たちが当然東山道を通った。彼らにとって神坂峠はどんな意味を持ったのだろうか。都への思いと決別し、新任地へ向けて心を切り替える場所ではなかったか、逆に帰還地、都に通つたという感慨をもたれたかもしれない。

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

シリーズ ほろ酔い一筆

香薬師

この時期になると、奈良のあの道場を思い出す。白雲寺から新薬師寺、春日大社を経て東大へ、とたどる道だ。観音もたくさんいる。その行程で、新薬師寺はわりわけ思い出深い。



その名は薬師如来立像、別名「香薬師」。戦時中の一九四三年に盗難に遭い、以後、行方知れずになっていた。実は明治以降、それまでに盗難に遭っているらしいと二度と戻つては。だからいつの日か戻ることがあるかもしれない。

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

シリーズ ほろ酔い一筆

日本語

日本人は議論が下手だとわれわれも思っている。だから外交も不得手なのだ。これは半ば事実だと思う。しかし、これは日本の社会と文化の精神文化の成り立ちにかかわる問題なのではないだろうか。



そのため、個人の意思は、多くの場合手紙で伝えられた。古くは歌のやりとりとして。熟考して言葉を遣ひ、推し、その上で相手にどう受け取るか。それはもともと気を使わなくてはならないことだった。

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

シリーズ ほろ酔い一筆

目には青葉

目には青葉 やまじとぞす 初戀 信州も今まさにこの季節だ。晩春から初夏の季節感が溢れだされたこの句の作者は山口素雪、松尾芭蕉とも親しく交わった。江戸期の俳人である。



初戀吉に消さゆ小判なま まににに判一枚初戀 女房を貰はせても初戀 といった句が、 「金が無えや、金が無くも、そこを賄うのが江戸っ子だ。なんていふ賄語の小説が、食べ物、食、物の部分からなくなってきた今は、一年ぶりの初物を手に入れる喜びも薄れている。」

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

シリーズ ほろ酔い一筆

車の話

このコラムに車の話題は帯々多いと思つていた。趣味について述べるのはいいや、たつたから、しかし、大手自動車メーカーの次期社長に内定している人が、今ドイツで開かれているレースに出場する聞き、気が変わった。



だから、多くの欧米人にとっての車は単なる移動手段ではない。各国政府の考え方も、日本とだいぶ異なる。誤解を恐れずに言えば、個人の自由と社会のあり方を考える「本気度」の違いも言える。若者の車離れが日本ほど進んでいないというところは、東洋では日本ほど古い世代が高い車を持つ環境がなかったからでもある。

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

シリーズ ほろ酔い一筆

風越山

幼いときから見慣れた里山は、ふるさとを離れてもとこら懐かしい。県内にもそうした山がいっぱいある。飯田市の風越山もその一つだ。ここでは子供から大人までこの山に親しむ機会が多い。



これは一部である。「風越」を別の山とする説もあるが、東国を結ぶ当時の級国道である東山道沿いに位置し、近くに関原寺木といふこれまた都人の歌を誘う名や伝説があることと思えば、「かきこ」で歌人の間で意味が通るのはやはり飯田の風越山だろう。

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞

シリーズ ほろ酔い一筆

また食べたれアツリ

東京国立博物館で二カ月前にわたり開かれていた「阿修羅展」がきょうで幕を閉じた。奈良興隆寺関連の他の国宝もまた出土されたのだが、やはり阿修羅像が最大のものである。これは阿修羅像が阿修羅の阿修羅像には幾度も会った。三面六臂の特殊な姿など、たつた正面の顔の、故人ごときな女像の夏目推子も似た容顔に強い印象を受けたのだが、今回特別に作られた映像説明で、双眸に涙をたたえていることを知った。同時に、長年の疑問が氷解した。



阿修羅は仏教の守護神である帝釈天のライバルで、絶えず闘争に明け暮れる存在だったという。帝釈天ももともと仏教の神ではない。ともに仏教に取り込まれたのだが、そんないきさつもあって、多々、戦術的な姿で表される。むしろ、興隆寺の阿修羅像などは剛毅的な存在と言つていい。

信州 あつみ野
二百年の伝統、
小仕込み原酒。
鬼丸
ExcellHuman
EH酒造株式会社
金賞受賞